

《Ⅰ. 研究報告》

助成年度 Grant Year	2023
研究テーマ Research Title	障害高齢者の市民活動参加の行動特徴と支援—社会的孤独を軽減するため—
研究代表者 Representative	Mao Yaqian
代表者所属機関 Organization	筑波大学 生命地球科学研究群
職名・課程名 Position/Program	地球科学学位プログラム博士後期課程

①研究概要

研究の背景、目的・リサーチクエスション、学術的重要性、対象について記述してください。

【研究の背景】

近年、日本では高齢化が急速に進む中で、障害高齢者の社会的孤独が深刻な社会問題となっている。社会的孤立は、身体的・精神的健康や生活の質に悪影響を及ぼすのみならず、社会参加の機会を制限し、生活の満足度を低下させる要因となる。特に障害を持つ高齢者は、交流の機会が限られることが多く、日常生活において孤立感を抱えやすい傾向がある。

市民活動への参加は、社会的ネットワークを構築し、社会的孤立を軽減する有効な手段として注目されている。しかし、障害高齢者、特に視覚障害を持つ高齢者の市民活動への参加行動特徴については、十分に理解されているとは言い難い状況である。このような背景から、視覚障害高齢者の市民活動参加の行動特徴を明らかにし、適切な支援策を検討することが求められている。

【研究の目的・リサーチクエスション】

本研究の目的は、視覚障害高齢者の社会的孤独を軽減するために、市民活動への参加の行動特徴を詳細に調査し、具体的な支援策を提案することである。具体的には、以下の点に焦点を当てる。

- ⑩ 視覚障害高齢者が市民活動に参加する際の行動特徴（例：参加の動機、活動内容の選好、参加頻度など）を明らかにする。
- ⑩ 市民活動への参加を阻む制約要因（例：移動の困難さ、情報アクセスの障壁、心理的抵抗など）を把握する。
- ⑩ 市民活動への参加意欲や継続性に影響を与える要因（例：サポート体制、活動の満足度、地域の受け入れ態勢など）を分析する。

【学術的重要性】

本研究は、視覚障害高齢者に特化した市民活動参加の行動特徴を分析する点で学術的に新規性がある。特に、視覚障害という特定の障害に焦点を当てることで、従来の研究では見過ごされがちだった細かなニーズや課題を明らかにすることが期待される。さらに、市民活動への参加が社会的孤立を軽減するメカニズムを解明することで、高齢者福祉や地域社会の活性化に関する研究に新たな知見を提供する。

加えて、本研究は時間地理学の理論を援用し、スウェーデンなどの高福祉国家における時間地理学の研究と応用の流れに沿うものである。視覚障害高齢者の市民活動参加における時間的・空間的制約を分析することで、時間地理学の理論的枠組みを日本の文脈に適用し、実践的な研究事例を提供する。これにより、東アジア地域における障害者研究への時間地理学の応用可能性を拡大し、学術的な貢献を果たすことが期待される。

【研究対象について】

本研究の対象は、茨城県つくば市に居住する視覚障害を持つ65歳以上の高齢者とする。具体的には、以下の条件を満たす方を対象とする。

- ⑩ 障害者手帳を所持している高齢者。
- ⑩ 過去1年間に市民活動（例：地域のボランティア活動、趣味のサークル、文化活動など）に参加した経験がある、または参加を希望している方。
- ⑩ 障害者行動支援を利用している方。

調査方法としては、参与観察・インタビュー・アンケートを通じて、市民活動への参加経験や

制約、参加意欲に影響を与える要因を詳細に聞き取る。また、視覚障害者支援団体やつくば市役所福祉課との連携を通じて、地域資源や支援体制の現状についても調査を行う。

つくば市を研究対象とすることで、地域特性を考慮した具体的な支援策を提案することが可能となる。また、他の地域への応用可能性も探る。

以上のように、本研究は視覚障害高齢者の市民活動参加に焦点を当て、その行動特徴と支援策を探ることで、高齢者の社会的孤独を軽減し、地域社会の活性化に寄与することを目指している。

②研究の経過（研究課題Ⅰ）

研究課題Ⅰについて、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

研究課題Ⅰ：障害者行動・外出支援に関する政策―市役所の役割を中心に―

実施内容：

つくば市市役所の以下の部署を対象に、半構造化インタビューを実施した。対象部署は、福祉部社会福祉課、市民部市民協働課、福祉部障害福祉課、福祉部高齢福祉課の4課である。インタビューは、各課の担当者が回答可能な質問に応じて分担し、合計3時間の時間を設定して実施した。各課の担当者は、自身の専門領域に基づいて質問に回答し、全体として36問の質問をカバーした。

インタビューの内容は、以下の9つのカテゴリーに分類され、各カテゴリーには複数の質問項目が含まれた。各課の担当範囲に応じて、回答する質問数や内容が異なった。

1. 地域振興：地域活性化に向けた取り組みと障害者・高齢者の社会参加との関連性。
2. 組織関係：市役所内の各課間の連携体制および外部組織との協力関係。
3. 支援内容：障害者・高齢者に対する具体的な支援プログラムとその実施状況。
4. 高齢者と障害者の社会参加の人口社会的特徴：社会参加者の年齢層、性別、障害種別などの特徴。
5. 社会参加現状：市民活動への参加率や参加者の満足度、課題。
6. 外出困難・移動困難：外出や移動における物理的・心理的障壁とその対策。
7. 情報発信：支援情報の提供方法とその効果。
8. 在宅支援：在宅高齢者・障害者に対する支援策とその課題。
9. 政策と生きがい：社会参加を通じた生きがい創出と政策の関連性。

インタビューを通じて、合計約45,000字のテキストデータを収集した。また、インタビュー中に提供された市役所の関連統計データや書面報告書などの補足資料も併せて収集し、分析に活用した。これらのデータは、質的・量的両面から障害者行動・外出支援政策の現状と課題を明らかにするための重要な基礎資料となった。

以上の実施内容により、つくば市における障害者・高齢者支援政策の全体像を把握し、行政の役割とその効果を多角的に分析することが可能となった。

②研究の経過（研究課題２）

研究課題２について、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

研究課題２：障害者活動・外出支援会社や社会組織の役割―管理者と高齢者の視点から―

実施内容：

視覚障害者に対する外出支援を提供する２社の企業を対象に、視覚障害者の外出支援における課題や役割についてインタビューを実施した。さらに、視覚障害高齢者に対しても、外出支援サービスに対する評価や利用体験についてインタビューを行った。

インタビューの内容は、以下の８つのカテゴリーに分類され、各カテゴリーには複数の質問項目が含まれた。

1. 物理的制約：移動における物理的な障壁（例：段差、狭い通路、交通機関の利用困難など）。
2. 時間的制約：外出に必要な時間的コストやスケジュール調整の課題。
3. 社会的制約：社会的な偏見や理解不足が外出に与える影響。
4. 政策および制度上の制約：現行の支援政策や制度の課題と改善点。
5. 環境的制約：地域環境やインフラが外出に与える影響（例：歩道の整備状況、信号機の音声案内など）。
6. 個人的要因：視覚障害者の身体状況や心理的状态が外出に与える影響。
7. 支援の必要性：外出支援サービスの現状と今後のニーズ。
8. 活動選択の制約：視覚障害者が活動を選択する際の制約要因（例：情報アクセスの困難、活動場所の制限など）。

企業に対するインタビューは、２社合わせて計４.５時間をかけて実施し、合計３５,０００字のテキストデータを収集した。インタビューでは、管理者と従業員の双方から、視覚障害者の外出支援における具体的な事例や課題を詳細に聞き取り、支援サービスの現状と改善点を明らかにした。

さらに、視覚障害高齢者に対しても、外出支援サービスに対する評価や利用体験についてインタビューを行った。これにより、サービスの利用者側の視点から、支援の効果や課題を把握することができた。

以上の実施内容により、視覚障害者の外出支援における企業や社会組織の役割を多面的に分析し、利用者側の評価を加えることで、今後の支援策の改善に向けた重要な知見を得ることができた。

②研究の経過（研究課題 3）

研究課題 3 について、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

研究課題 3：市民活動に参加する障害者高齢者の行動特徴

実施内容：

視覚障害高齢者が市民活動に参加する際の行動特徴を明らかにするため、以下の 3 つの研究内容に焦点を当てた。

1. 行動パターンと頻度の分析

- 参加する市民活動の種類（例：ボランティア活動、趣味のサークル、文化活動など）を特定し、参加頻度や活動内容を調査した。
- これらのデータを通じて、視覚障害高齢者の日常生活における市民活動の役割を理解することを目指した。

2. 参加の動機の特定

- 参加の動機として、社会的なニーズ、自己実現の欲求、他者への貢献意欲などが挙げられるかを調査した。
- これらの動機を把握することで、より効果的な参加促進策を検討するための基礎データを収集した。

3. 社会的ネットワークの影響

- 市民活動における交流や人間関係の構築が、視覚障害高齢者の社会的孤立感の軽減や参加意欲にどのような影響を与えるかを分析した。
- 特に、活動内での対人関係の質や量が、参加継続や満足度に与える影響に注目した。

研究方法として、視覚障害高齢者の市民活動参加における行動特徴を明らかにするため、アンケート調査と参加観察法を組み合わせた混合研究方法を採用した。まず、支援会社や社会組織との協力を通じて、視覚障害高齢者を対象にアンケート調査を実施し、参加活動の種類、頻度、動機、社会的ネットワークの形成状況などの定量データを収集した。次に、調査員が研究対象者が参加している市民活動に実際に参加し、対象者の行動や他の参加者との交流を観察することで、アンケートでは得られない詳細な行動特徴や対人関係の動態を記録し、質的データを補完した。これらの方法を組み合わせることで、視覚障害高齢者の市民活動参加における行動特徴を多角的に分析し、その背景にある動機や社会的ネットワークの影響を明らかにすることができた。

②研究の経過（研究課題 4）

研究課題 4 について、課題名と実際におこなった内容を具体的に記述してください。

研究課題 4：障害者高齢者の市民活動参加の制約

実施内容：

視覚障害高齢者が市民活動に参加する際の制約要因を明らかにするため、深度インタビューと時間地理学的アプローチを組み合わせた調査を実施した。

まず、協力度の高い視覚障害高齢者を対象に、半構造化インタビューを行い、基本情報（年齢、性別、居住環境、障害の種類や程度、障害歴）や日常出行特徴（移動パターン、外出頻度、利用交通手段）、外出援護の利用歴（支援サービスの利用経験や課題）、日常社交状況（対人交流の頻度や社会的ネットワークの形成状況）、および市民活動への参加（参加経験、頻度、活動内容、動機や制約）について詳細に聞き取りを行った。これらのインタビューを通じて、市民活動参加を阻む物理的・心理的・社会的な制約要因を特定し、その背景を探った。

さらに、時間地理学的アプローチとして、視覚障害高齢者に対して 1 週間の行動日記を記録してもらい、日常生活全体の行動パターンを分析した。日記には、移動時間、活動内容、同行者、利用した支援サービスなどを記録し、市民活動参加の制約を日常生活の文脈から包括的に理解することを目指した。この方法により、インタビューでは得られない詳細な行動データを補完し、市民活動参加の制約をより多面的に分析することができた。

以上の実施内容により、視覚障害高齢者の市民活動参加の制約を、日常生活全体の視点から包括的に明らかにすることができた。これらの知見は、市民活動参加を促進するための具体的な支援策の設計に重要な示唆を提供するものである。

③成果・期待される波及効果等

研究を実施して得られた成果および期待できる波及効果について記述してください。

この研究の成果から、以下のような波及効果が期待される。

- ⑩ **高齢者福祉政策への貢献**：この研究で得られた知見は、視覚障害高齢者の社会的孤立を軽減するための具体的な支援策として、行政や福祉団体に活用されることが期待される。特に、移動支援や情報アクセスを改善するための施策が、市民活動参加を促進する重要な手段として提案される。
- ⑩ **地域社会の活性化**：視覚障害高齢者が市民活動に参加しやすくなることで、地域社会の多様性が高まり、地域全体の活性化につながることが期待される。また、地域住民との交流が増えることで、相互理解が深まり、共生社会の実現に役立つと考えられる。
- ⑩ **学術的貢献**：この研究は、視覚障害高齢者に特化した市民活動参加の行動特徴を分析した点で、学術的に新しい価値を持っている。特に、時間地理学の理論を日本の文脈に適用し、実践的な研究事例を提供したことで、東アジア地域における障害者研究への時間地理学の応用可能性を広げた。これにより、今後の高齢者福祉や地域社会研究において、新しい理論的枠組みが構築されることが期待される。
- ⑩ **他地域への応用可能性**：つくば市を対象としたこの研究の成果は、他の地域にも応用可能な汎用性を持っている。特に、高齢化が進む他の都市や地域でも、同様の支援策を導入することで、視覚障害高齢者の社会的孤立を軽減し、地域社会の活性化を図ることができると考えられる。

以上のように、この研究は視覚障害高齢者の市民活動参加に焦点を当て、その行動特徴と支援策を探ることで、高齢者の社会的孤立を軽減し、地域社会の活性化に役立つことを目指している。今後の研究や実践において、これらの成果がさらに発展し、社会全体に広く波及することを期待している。

④成果物

本研究について発表した論文、刊行物、シンポジウム等の情報を記載してください。

参照 URL がある場合はそれを含めてください。

なし

⑤写真

研究実施中の様子、成果物等の写真を掲載してください。（各写真にキャプションを付けてください。）
